

事務事業名	交付金活用橋梁修繕事業	所属部	建設部	所属課	建設工務課	
総合計画体系	政策名	(Ⅱ)安全・安心で快適なまち<<定住環境>>	所属G	公共土木G	課長名	渡部 克彦
	施策名	(12)生活道路の整備	担当者名	松村 直樹	電話番号	0854-40-1063 (内線) 2472
	目的	対 A)市民(道路利用者) B)生活道路(市道) 意図 市内を安全に移動できる。	予算科目	会計 014001 款 01 目 2003	大事業名	橋梁維持補修事業
	基本事業名	(036)生活道路の維持管理 意図 安全に移動できるように道路を維持管理し、情報を発信する。	中事業名	交付金活用橋梁修繕事業	大事業名	

1 現状把握 [DO]

(1) 事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (26 年度～)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
・遠方目視による橋梁点検結果及び道路法改正に基づく近接目視による橋梁点検結果に基づき、橋梁長寿命化計画を策定し、計画的な修繕を行う。

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	30年度実績(30年度に行った主な活動)	元年度計画(元年度に計画する主な活動)			
		・市道橋梁点検の業務委託 ・橋梁点検結果に基づく設計業務委託 ・長寿命化計画に基づく修繕工事	・市道橋梁点検の業務委託 ・橋梁点検結果に基づく設計業務委託 ・長寿命化計画に基づく修繕工事			
	② 活動指標	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(計画)
ア	橋梁修繕数	橋	2	9	8	15
イ	調査設計済橋梁	橋	6	20	34	5
ウ	橋梁点検数	橋	322	270	240	163
エ						

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(計画)	
	①生活道路の利用者 ②雲南市道の橋梁	ア	人口【国勢調査(推計)】	人	38,506	37,794	37,012	37,496
		イ	雲南市市道延長	km	1,160	1,112	1,112	1,163
		ウ	雲南市市道橋梁数	橋	1,036	1,035	1,035	1,035
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(計画)		
①市内を安全で迅速に移動できるようにする。 ②修繕(補修)等を実施する。	ア	生活道路が安全で便利だと感じている市民の割合	%	71.9	69.2	59.5	60.0	
	イ	生活道路で危ない場所があると感じている市民の割合	%	51.7	53.3	70.5	70.0	
	ウ	長寿命化、耐震化を行った橋梁数	橋	2	9	8	15	

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (30年度決算)	② コストの推移	単位	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	元年度(計画)	
(H30)・市道橋梁定期点検業務3,806千円、市道橋梁点検業務2,335千円、元学校前橋JR点検業務3,200千円、施設点検・診断技術支援業務91千円、横断歩道点検業務1,674千円、望頂トンネル・芦原トンネル照明施設更新設計委託6,685千円、市道橋梁点検補助業務(その1～2)913千円 ・望頂トンネル修繕工事7,860千円、望頂トンネル照明更新工事35,800千円、折坂橋修繕工事615千円、東橋修繕工事1,207千円、樺橋修繕工事2,048千円、畑橋修繕工事7,438千円、新曾木橋修繕工事811千円、稲葉橋修繕工事659千円、笹谷線1号橋修繕工事583千円、山光橋修繕工事7,884千円 ・望頂トンネル電気通信設備移設費515千円 ・消耗品費436千円、燃料費167千円、印刷製本費100千円	財源内訳	国庫支出金	千円	67,115	80,742	50,620	63,427
	県支出金	千円					
	地方債	千円	16,400	39,200	23,800	22,600	
	その他	千円	11,150	60			
	一般財源	千円	13,566	14,853	10,407	24,819	
	事業費計(A)	千円	108,231	134,855	84,827	110,846	
	人員	正規職員従事人数	人	5	3	3	
	延べ業務時間	時間	300	500	300		
	人件費計(B)	千円	1,190	2,039	1,300		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	109,421	136,894	86,127		

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
・道路法等一部改正により2m以上の橋梁について5年に1回の点検が必要であり、その結果に基づき修繕が必要となる。	・計画的な修繕により橋梁の長寿命化を行うことができる。 ・点検結果に伴う優先順位により、効率的な修繕ができる。	・市民より橋梁の点検や修繕の要望がある。

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒	見直し余地があるとする理由
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である * 余地がある場合⇒	
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒	
B 有効性	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？ <input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない 理由	・点検結果に基づき修繕計画を策定し、予防的な修繕等により将来的な経費削減を行うものであり成果は最大である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ <input type="checkbox"/> 影響無 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 理由	・市道橋梁の安全性が保たれなくなる。 ・道路法の一部改正により、2m以上橋梁を今後は5年に1回点検し、点検結果に基づく修繕が必要となる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？ <input type="checkbox"/> 他に手段がある *ある場合⇒ (具体的な手段や類似事業名) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない 理由	・市道橋梁独自の事業であり類似事業がない。
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 理由	・点検結果に基づき修繕計画を策定し、予防的な修繕等により将来的な経費削減を行うものであり削減の余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？ <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 理由	・道路管理者が行う修繕工事発注であり、これ以上の人件費削減余地はない。
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である 理由	・利用者が市内を安全で迅速に移動できるようにするものであり、公平・公正である。
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果 A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	② 1次評価結果の総括(根拠と理由) ・点検結果に基づき修繕計画を策定する。予防的な修繕等により将来的な経費削減を行うものであり成果は最大である。 ・2m以上の市道橋梁の安全性を保つため、5年に1回の点検結果に基づき修繕が必要である。

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	② 改革・改善による期待成果																					
・道路法の一部改正により、今後は2m以上の橋梁については5年に1回の点検が必要である。なお、点検基準及び要領については平成26年7月に示されたが、平成27年度より近接目視へと変更となり、新たな点検基準及び簡易版点検要領に基づき実施した。 ・橋梁修繕計画とともに橋梁点検計画も策定する必要がある。 ・事後保全から予防保全にシフトすることにより、将来的なトータルコストを削減できる。	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> <p style="font-size: small;">廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		●	×																		
	低下		×	×																		